
悩める妹と妖精

麻雛琥桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悩める妹と妖精

【Nコード】

N5351BA

【作者名】

麻雛琥桃

【あらすじ】

悩める少女の瞳に珍妙な男の姿が映った。

その男の姿はどうやら自分以外には見えないらしく……

<悩みを打ち明けるのは意外と難しい>

変な男を見つけた。

それも学校の門の前に。

男は淡いピンクにハート柄のスーツとシルクハットを被っている。この男はきつと不審人物に違いないのだが、周りの反応がどうにもおかしいのだ。

私以外の生徒は門の前にいる男に気付いてないらしい。というより見えてないらしい。

中には男の傍をギリギリ通る者もいる。

それでも気付かない。

自分の目が心配になってきた。なぜ、あんな変な男が見えるのだろう。

「どーかしたのっお嬢さん？」

半ば俯きかけていた顔を上げた。

目の前に変な男が満面の笑顔で立っていた。

「お嬢さん、俺のことずっと見てたでしょ」

確かに見ていた、が気付いていないと思った。

とりあえず目の前にいる男からどう逃れるか考えをめぐらしていた。

「お嬢さん、今恋してる？」

ナンパでもする気か？

「してません」

「そうだね」だって、お嬢さんなにかに悩んでいるみたいだもの。そりゃ、恋をしてる暇なんてないよね」

私は驚いた。なぜ私が悩んでいることに気付いたのか。

「ちなみに何に悩んでるのさ」

「……姉のことです」

歌うような男の口調に乘せられてつい口が滑ってしまった。

「ふんふん、お姉さんか？お姉さんがどうかしちゃったの？」

「姉が悪い男に引つかかっているんです」

自分はなぜ初対面のしかも珍妙な格好をした男に悩みを打ち明けているのだろう。

「どんな男？」

「……姉にお金をたかりにくるんです。後、町中でたくさんの女の子を連れて……遊んでいたんです」

「ふんふん。大変だねえ、でそのお姉さんの名前は？」

「……葵……」

「アオイちゃんね！分かった！ありがとう」

私はハツとなった。つい全てを喋ってしまった。

男の話術に乗せられていたのだろうか。

「んっ？ おお！ レン！」

私の向こう側に手を振っている。

私は振り向いてみたが、下校中の生徒と部活をしている陸上部だけがいた。

どの生徒も目の前の男に向かって手など振っていない。

「レン！ 見つかったぞ！ この子のお姉さんだ！」

男は無邪気そうな笑顔を私に向けた。

意外とカッコよかったことに今更ながら気付いた。

「では、さらばだお嬢さん！」

男の姿は一瞬でまるで幻の如く消え去った。

自分の姉になにかする気なのだろうかと思った今、心配になった。しばらくの間、私はそこから歩き出せなかった。

ハート柄のスーツを身に纏った男の向かう先は

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5351ba/>

悩める妹と妖精

2012年1月14日20時47分発行